

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### ■ 目 次 ■

ア 学則変更（収容定員変更）の内容 .....	1
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性 .....	2
I. 学則変更の背景 .....	2
II. 学則変更の必要性 .....	2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 .....	5
I. 教育課程の変更内容 .....	5
II. 教育方法及び履修方法の変更内容 .....	7
III. 教員組織の変更内容 .....	8
IV. 大学全体の施設・設備の変更内容 .....	8

## ア 学則変更（収容定員変更）の内容

2020年度入学生（編入学生を含む）から、生物産業学部各学科の入学定員、編入学定員及び収容定員を下表のとおり変更する。入学定員については、北方圏農学科は9名減員、海洋水産学科は11名増員、食香粧化学科は11名増員する。編入学定員については、北方圏農学科は10名減員、食香粧化学科は12名減員、自然資源経営学科は5名減員する。収容定員については、学部全体で2名減員する。

（単位：人）

学部	学科	現行			変更後			増減		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
農学部	農学科	170	0	680	170	0	680	0	0	0
	動物科学科	140	0	560	140	0	560	0	0	0
	バイオセラピー学科 （平成30年4月学生募集停止）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	生物資源開発学科	125	0	500	125	0	500	0	0	0
	デザイン農学科	123	0	492	123	0	492	0	0	0
応用生物科学部	農芸化学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	醸造科学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	食品安全健康学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	栄養科学科	120	0	480	120	0	480	0	0	0
生命科学部	バイオサイエンス学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	分子生命化学科	130	0	520	130	0	520	0	0	0
	分子微生物学科	130	0	520	130	0	520	0	0	0
地域環境科学部	森林総合科学科	130	0	520	130	0	520	0	0	0
	生産環境工学科	130	0	520	130	0	520	0	0	0
	造園科学科	130	0	520	130	0	520	0	0	0
	地域創成科学科	100	0	400	100	0	400	0	0	0
国際食料情報学部	国際農業開発学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	食料環境経済学科	190	0	760	190	0	760	0	0	0
	国際バイオビジネス学科	150	0	600	150	0	600	0	0	0
	国際食農科学科	110	0	440	110	0	440	0	0	0
生物産業学部	北方圏農学科	100	10	420	<b>91</b>	<b>0</b>	<b>364</b>	-9	-10	-56
	海洋水産学科	80	0	320	<b>91</b>	<b>0</b>	<b>364</b>	11	0	44
	食香粧化学科	80	12	344	<b>91</b>	<b>0</b>	<b>364</b>	11	-12	20
	自然資源経営学科	90	5	370	90	<b>0</b>	<b>360</b>	0	-5	-10

## イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

### I. 学則変更の背景

平成 26 年度 文部科学白書第 5 章 第 1 節. 1. (1)「大学教育の質・量両面の充実に向けて」にて「高等教育機関、とりわけ大学には、世界を舞台に活躍するグローバル人材、新たな価値を創出するイノベーション人材等、幅広い教養や高い専門性を備えるとともに、社会の変化に対応するための基礎的な力を有し、将来に活路を見いだす原動力となる人材の育成が求められています。」とあり、「知識基盤社会が一層進展するこれからの時代において、大学力は国力そのものであり、社会の期待に応える大学改革を推進するとともに、改革に積極的に取り組む大学を強力に支援することによって、質・量両面での大学教育の充実を図っていく必要があります。」と述べられている。

大学教育の「質」の面について、本学は、農と生命を科学する総合大学として、高度化と複雑化が加速する現代社会の要請に的確に応え、広義の農学領域の課題解決に貢献できる人材を育成するため、学部等再編や様々な教育上の取組みを実施してきた。これらの結果として、本学の教育理念・目的や教育内容が社会的に高い評価を得ることとなり、入学試験における志願者数・志願倍率の高い水準での維持、さらには本学卒業生の高い就職決定率へと繋がっている（詳細は「学生確保の見通し等を記載した書類」参照）。

一方、大学教育の「量」の面について、成熟社会においては、知識基盤社会の進展や産業・就業構造の変化により、高度な知識や技能を有する高等教育修了者の需要がこれまで以上に増加することが予想されており、実際、多くの OECD 加盟国では大学レベルの高等教育への進学率が上昇傾向にある。このような状況を踏まえ、学ぶ意欲と能力を持つ全ての若者に高等教育の機会を開くとともに、社会人の学び直しなど生涯学習の場としての機能の充実や、留学生の受入れの推進、大学院教育の充実なども含めて一層多様で質の高い大学教育の機会の充実に努めていくことが重要であると白書で述べられている。

以上のように今後の日本の社会において、「質」の高い教育に基づく高度な知識や技能を有する高等教育修了者の需要の増加が予想される中、大学教育の「量」に対する充実も求められている。

### II. 学則変更の必要性

本学生物産業学部は北海道網走市に所在し、2019 年度現在、北方圏農学科、海洋水産学科、食香粧化学科及び自然資源経営学科の 4 学科により構成する。

本学部は、前述の社会的背景を踏まえ、本学短期大学部の廃止(2018 年 11 月 6 日認可)に伴い、これまで本学短期大学部卒業者に修学機会を提供するため、本学部(北方圏農学科、食香粧化学科及び自然資源経営学科)が設定してきた 3 年次編入学定員を廃止する。あわせて、生命と農を科学する総合大学として、現代社会の要請に的確に応え、広義の農学領域の課題解決に貢献できる人材を育成するため、廃止する編入学定員を本

学部(海洋水産学科及び食香粧化学科)の入学定員に取り入れる。

入学定員を変更するにあたり、入学定員増員後も十分学生が確保できること、及び卒業後の進路が十分確保できること(詳細は「学生確保の見通し等を記載した書類」参照)を念頭に、専任教員数、これまで整備してきた教育研究環境の中で教育の質の維持向上が可能な範囲で検討を行った。

今回の学則改正(収容定員の変更)は、前述のとおり、本学に期待される社会からの要請に積極的に応えるため行うもので、学部・学科の理念、目的等に変更はない。なお、学部及び収容定員を変更する各学科の「教育研究上の目的」及び「教育目標」は以下のとおりである。

## 1. 生物産業学部

### (1) 教育研究上の目的

本学部は、人類生存にとって極めて重要な生物産業(生産、加工、流通・ビジネス)と自然環境との共生をテーマに、これらを取り巻く自然科学的・社会的現象を教育研究の基盤とした文理融合の体系的な学びを通して、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、持続的循環型社会に貢献しうる人材を養成する。

### (2) 教育目標

生物産業学部は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 広義の農学を基盤とした生物産業学に関する高度な専門知識と技術を幅広く有する者
- ② 生物産業学の専門家としての意欲と責任を自覚し、実学主義のもと意欲的に課題に取り組む問題解決能力を有する者
- ③ コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献できる者

## 2. 北方圏農学科

### (1) 教育研究上の目的

本学科は、多様な陸圏領域の教育・研究が実践できるように配置した植物系、動物系、資源・環境系の分野において、北方圏や高緯度地帯等を対象とした新しい生物資源の開発や多様な環境に配慮した生物生産力の拡大、生物資源機能の新しい応用等にかかわる理論と技術を教育研究し、国際的な視点で地域産業の発展に貢献できる人材を養成する。

### (2) 教育目標

北方圏農学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 陸圏領域における生物生産科学についての深い探求心を有する者
- ② 生物資源の生産(生物生産)や生態系保全に係わる課題を主体的に解決する力を有する者
- ③ 生物生産や生態系保全に関する専門的知識のみを有するのではなく、市民社会との

連携を取ることのできる者

### 3. 海洋水産学科

#### (1) 教育研究上の目的

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と、それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等に資する人材を養成する。

#### (2) 教育目標

海洋水産学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 水産学を基盤として、水圏の生物学と食料生産に関する専門知識と技術を幅広く有する者
- ② 水圏の生物学と食料生産の専門家としての責任を自覚し、水産業にかかわる問題解決能力と意欲を有する者
- ③ 適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、水産業を通じて社会貢献ができる者

### 4. 食香粧化学科

#### (1) 教育研究上の目的

本学科は、オホーツク地域の農水畜産資源を活用した食品や香料、化粧品製造・加工法、製品の安全・安心に関わる微生物学的研究、機能性食品や化粧品の性状と機能に関する生物化学的研究に重点をおき、基礎から応用まで総合的な教育研究を行い、産業界で即戦力として活躍できる人材を養成する。

#### (2) 教育目標

食香粧化学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 食品、香料および化粧品の素材についてその生物学的特性と機能性を理解し、その知識を研究開発に応用する能力を有する者
- ② 食品、香料および化粧品の加工技術について幅広い知識を有し、素材の特性を生かした安心で安全なものづくりを実践できる能力を有する者
- ③ 優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有し、自ら問題意識を持って積極的に問題解決に取り組む技量を有する者

### 5. 自然資源経営学科

#### (1) 教育研究上の目的

本学科は、自然資源を活かした農林水産業、食品加工業、観光業、環境ビジネスなど、地域の生物産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性

化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材を養成する。

## (2) 教育目標

自然資源経営学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 広義の農学である生物産業学を基盤とした自然資源経営学における専門知識と技術を有する者
- ② 専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決能力と意欲を有する者
- ③ 適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献ができる者

## ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

### I. 教育課程の変更内容

今回の学則改正（収容定員の変更）は、前述のとおり、本学に期待される社会からの要請に積極的に応えるため行うもので、これに伴う教育課程の変更はない。

学部及び各学科の「カリキュラム・ポリシー」は以下のとおり従前と変更はない。

#### 1. 生物産業学部

生物産業学部は、生物資源や自然資源を「生産－加工－流通・ビジネス」という生物産業を一貫して学ぶことを「農学」分野における「生物産業学」と捉え、全学部的な教養科目との融合を前提とした各学科が提供する専門科目教育課程の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- ① 基礎的・基盤的知識の修得と生物産業学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」および「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当するとともに、効果的な学修を行うため、各学科で将来目指すコースごとに必要な実践的専門知識と技術を身につけられるよう、履修モデルを設定する。
- ② 「総合教育科目」および「外国語科目」には、「導入科目」、「リメディアル教育科目」および「初修外国語科目」等の区分を設け、異文化理解および国際的視野を形成し、かつオホーツクという立地的特性を考慮した特色ある科目を配当するとともに、専門教育科目を修得する上で必要な基礎的科目を配当する。
- ③ 「専門教育科目」には、「専門共通科目」、「創生型科目」および「学際領域科目」等の区分を設け、生物産業学の基礎となる科目をはじめ、オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目や、「生産－加工－流通・ビジネス」というアグリ・フードビジネスを一貫して学ぶ「オホーツク学」等を配当する。
- ④ 「専門教育科目」の「総合化科目」には、実践的専門知識と技術を修得させる多くの実験・実習・演習科目を必修科目として配当するとともに、課題解決能力、プレ

ゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を育成するために、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。

## 2. 北方圏農学科

北方圏農学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- ① 生物生産及び生態系保全に関わる知識を得ることを目的に、「幅広い視点」を醸成するための生物生産および人文・社会科学の領域を含む基礎科目を配当するとともに、生物生産にかかわるより専門的な知見が得られる専門科目を配当する。
- ② 生物資源が豊富な生物産業学部の立地条件を活かし、地域の生物資源や環境資源を取り入れた基礎から応用までの実験、実習および演習科目を配当する。
- ③ 生物生産や生態系保全についての課題解決につながる国内外の情報を整理し、総合的に判断できる科目を配当する。
- ④ 自ら得た課題解決の知見を他者に伝えるためのプレゼンテーションスキルを学ぶ科目を配当する。

## 3. 海洋水産学科

海洋水産学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- ① 大学における学修方法や専門教育の動機づけとなる基礎的科目、国際的視野を形成するための外国語科目とともに、学修内容を将来の進路につなげるための準備科目を配当する。
- ② 水産生物の生物学的特徴や生態学的特徴について総合的で幅広い知識ならびに水産生物の増養殖についての基礎的知識や技術を修得するために、研究室配属前の学生が身につけるための科目、およびこうした知識をより実学的に学ぶための実験および実習科目を配当する。
- ③ 水産生物の生物学的ならびに生態学的特徴、そして増養殖についてより高度で専門的な知識や技術を修得するために、研究室配属後の学生が身につけるための科目、さらにより専門的な研究を実施するための実験および実習科目を通して、4年間の学修の集大成となる卒業論文を配当する。
- ④ 学習の成果を社会生活や職業生活の場で活かせるように、自分の考えを伝えるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけるための科目を配当する。

## 4. 食香粧化学科

食香粧化学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・

ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- ① 食品や香料、化粧品素材となる生物資源の特性を生物学・化学の視点から理解するための基礎科学に関する科目を配当する。
- ② 食品の摂取や香料、化粧品の利用が生体にどのような影響を及ぼし、安全で安心な製品とはどのようなものかを理解するための科目を配当する。
- ③ 食品や香料、化粧品を製造するための生物資源の利用と加工に関する科目を配当する。
- ④ 原料あるいは製品化された食品および香料、化粧品の特性や機能性の解析法の修得に関連する科目を配当する。
- ⑤ 論理的思考に基づいた研究の実践と論文の作成法を学ぶための科目を配当する。

## 5. 自然資源経営学科

自然資源経営学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- ① 社会科学の基礎となる経営学・経済学に関する理論や実践的な分析手法とビジネスプランを修得するための科目を配当する。
- ② 生物産業の持続的発展と地域社会の活性化に寄与できる担い手として必要な専門知識を修得するための科目を配当する。
- ③ 自然資源経営学の基礎となる科目をはじめ、オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目や、アグリ・フードビジネスに関連した専門科目を配当する。
- ④ これらに関連する専門的な知識・技能を修得するとともに、問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成するため科目を配当し、そのうえで4年間の学修の集大成となる卒業論文を必修科目として配当する。

## II. 教育方法及び履修方法の変更内容

本学では、学年進行に伴い必要とする知識、技術、技能を修得できるよう教育課程の体系性・順次性に配慮し、教育理念「実学主義」に則り、演習、実験、実習を多く取り入れ、様々な体験や経験を通じ、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を編成している。

学生は、教員による指導の他、履修モデル、カリキュラムツリー及びシラバスをもとに、自分の進路や興味関心にあわせ履修計画を策定する。

中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」には、予測困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる「学士力」の重要な要素が示されている。

本学では、研究室での教育研究活動や集団生活を「学士力」の重要な要素を育む源として位置付けている。本学における教育研究組織の最小ユニットは研究室であり、教員は学生への専門教育指導や課外活動のサポートの他、学生生活指導や就職支援も行っている。そのため、学生は研究室での集団生活を通じて、社会生活を送る上で重要な教養や専門知識のみならず、他者とのコミュニケーション能力等も身につけることができる。これらの取組が社会的に高い評価を得られ、本学卒業生の高い就職決定率に繋がっていると考える。

今回の学則改正により、収容定員は学科毎に多少の増減はあるものの、全体としては2人減員となり、授業運営は現在のクラス数で十分対応できると考えている。なお、選択科目等において履修者の増減があった場合は、状況に応じ教室変更またはクラス分け等により対応する。クラス分けを必要とする場合、原則として専任教員が当該授業を担当することとしており、授業運営上も支障はないと考える。

### Ⅲ. 教員組織の変更内容

教員組織については、現行の専任教員数をもって収容定員変更後の大学設置基準を満たしている。

今回の学則改正により収容定員は全体としては2人減員となるが、学科毎には多少増減があることから、学生一人当たりの教員数を改善し教育の質の向上を図るため、収容定員を増員する海洋水産学科及び食香粧化学科の専任教員を増員し、収容定員を減員する自然資源経営学科の専任教員を減員するなど、各学科の専任教員数の見直しを行った。その結果、学部全体では現行（平成30年度）と比較し専任教員を1名増員することとした<sup>資料1</sup>。

なお、教員の退職などによる後任については、内部昇格とあわせて、学科全体及び主となる分野毎に、職位（職階）や年齢構成のバランスに配慮し採用人事を行う。また、前任者の専門性や研究分野も考慮し、各学科の教育研究の質を維持する。

### Ⅳ. 大学全体の施設・設備の変更内容

本学部が所在する北海道オホーツクキャンパスは、自然豊かな環境に、97,400 m<sup>2</sup>の校地面積を有している。本学の教育環境については、建学の精神である「人物を畑に還す」を具現化することをテーマとし、「教育・学習に係る環境」、「生活の場としての環境」、「地球・地域に係る環境」といった側面から必要とされる機能を明確にしたうえで、「明快で機能的な空間計画」、「緑の連続的展開」を意識した整備方針に基づき、教育環境の維持・整備に努めている。

各学科の授業を実施する主要施設としては、講義室21室（収容100名未満の小規模教室を9室、収容100～199名の中規模教室を7教室、収容200名以上の大規模教室を5室）、コンピュータ演習室2室（収容72名・108名）、生物・化学等の実験室9室及び

各学科の学生数に応じた演習室を整備している。また、本学部の付置施設である網走寒冷地農場、オホーツク臨海研究センター及び食品加工技術センターも実験・実習等の授業で利用しており、これら充実した教育研究環境の中で授業を実施している。

さらに、広大な自然に囲まれたキャンパスの敷地には、緑地や広場を設け、学生の憩いの場として確保しているほか、学生会館や食堂(2カ所)などの屋内空間についても、学生の休息その他のスペースとして利用している。その他、キャンパス敷地内に運動場用地として30,100㎡有しており、グラウンド、野球場、テニスコート1面、多目的スペース等を設け、正課及び課外活動等に利用している。

今回の学則改正により、収容定員は学科毎に多少の増減はあるものの、全体としては2人減員となり、現状の施設・設備により教育研究の質は十分担保できるものと考えている。

収容定員変更に伴う専任教員数と学生数の比較

	2018.5現在				2020.4予定			
	設置基準	教員数①	学生数②	②/①	設置基準	教員数①	収容定員②	②/①
北方圏農学科	9	15	452	30.1	9	15	364	24.3
海洋水産学科	8	11	363	33.0	9	12	364	30.3
食香粧化学科	9	12	367	30.6	9	14	364	26.0
自然資源経営学科	12	15	407	27.1	12	13	369	28.4
教職学術情報課程		3				3		
別表2	17				17			
合計	55	56	1,589	28.4	56	57	1,461	25.6